

来週の「売り物」記事はこれ



2016年10月28日号

毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

すべての子に家庭を 産婦人科医たちの挑戦

30日(日)



白い肌着をまとった赤ちゃんをそっと抱いて、父親になる男性は顔をほころばせ、母親になる妻は思わず目頭を押さえました。「この子の幸せを祈っています。よろしくお願いします」。朝の日差しに包まれた病室で、助産師はこの場にはいない生みの母を代弁するように頭を下げました。全国22の産婦人科医院で作る「あんしん母と子の産婦人科連絡協議会」(事務局・埼玉)は、親元で暮らせない子どもの特別養子縁組を進めようと、3年前に発足しました。妊婦のSOSに即応して心と体をケアし、選択肢の一つとして無償で縁組をあっせんしています。あっせんの多くは児童相談所やNPO法人などが手掛けており、医療機関が連携した団体は異色の存在といえます。中心となる鮫島浩二医師(64)とスタッフ、子どもを託した生みの親、子どもを迎える養親の思いに迫りました。



日曜朝は『S』で始まる——。ストーリーにご期待下さい

浄土真宗本願寺派門主、大谷光淳さんに聞く

不安の時代をどう生きるか

夕刊特集ワイド 31日(月)



39歳の浄土真宗本願寺派門主、大谷光淳さん=写真=が初の著書「ありのままに、ひたむきに」を出しました。門信徒約790万人、国内最大の伝統仏教教団の若きトップです。「私は(スマホより)ガラケー派」と笑う親しみやすさが魅力ですが、原発事故に苦しむ福島で手を合わせ、戦後70年の昨年には広島平和記念公園で法要も。さまざまな不安が渦巻く現代、私たちはどう生きるべきか。そして平和への思いは——。たっぷり語ってもらいました。

シリーズ 憲法70年 議論の出発点はどこか

佐々木毅元東京大学長 佐藤幸治京大名誉教授

オピニオン面[論点] 11月2日(水)

1946年11月3日に公布されてから、70年の節目を迎える日本国憲法。衆参両院で改憲勢力が3分の2を占め、憲法改正が初めて政治的日程として浮上するなか、テーマごとに専門家の知見、視点を紹介する大型シリーズをお届けします。複雑に入り組む憲法問題。初回は何かから考えるべきなのかを、佐々木毅元東大大学長と佐藤幸治京大名誉教授の2人に聞きました。



時代が見える——。オピニオン面にご期待ください。

白菜を食べよう

くらしナビA面 11月1日(火)



野菜の価格高騰が続いており、日々の食卓で「無駄なく食べきる」ことを心がけたいものです。野菜が中途半端に余ったら、ぬか漬けにするのがお勧め。40年以上、自家製の漬物を欠かしたことがないという料理研究家の松田美智子さんに白菜漬けの作り方を教えてもらいました。漬物は自分で作れば塩加減も調整でき、健康増進にも役立って一石二鳥といえます。

親ありて・若田光一さん

くらしナビA面 11月2日(水)から

日本人で初めて国際宇宙ステーション(ISS)コマンダーを務めた宇宙飛行士の若田光一さん(53)＝写真。「和の心」を掲げたリーダーシップや宇宙への興味は、どのように育まれたのでしょうか。故郷のさいたま市に母タカヨさん(83)を訪ねました。若田さんが中学生になるまでを記録した育児日記には、かわいらしい言葉やユニークなエピソードが綴られていました。



キャンピングカー

くらしナビA面 11月5日(土)



紅葉の季節を迎え、キャンピングカーを利用したキャンプに注目が集まっています。車中で仮眠できるため、休憩しながら長距離を移動できるのがメリット。普通免許で運転できるタイプもあり、ホテルに泊まらないため宿泊代はかかりません。車内にトイレやシャワーを備え、ソーラーパネル搭載で生活家電を使える車種も。キャンピングカーの魅力に迫ります。

女の気持ちをたずねて



おんなのしんぶん 31日(月)

埼玉県久喜市の主婦、梅沢安佐子さん(67)は昨年1月、背中に痛みを感じました。膵臓がんと診断されたのは半年あまり後。手術を受け、抗がん剤を飲み続けています。副作用は苦しいものの、おいの結婚式やコンサートに出かけることができました。再発や転移の恐れが頭をよぎる中、「心穏やかに、楽しいことを見つけて生きていきたい」と話しています。

